

第10回JICA理事長表彰が決定

01



表彰式の参加者と田中JICA理事長(前列左から4人目)

10月21日、第10回JICA理事長表彰の表彰式が行われました。これは年1回、開発途上国の経済・社会の発展、住民の福祉の向上などに大きく貢献した事業と、専門家やボランティアなどの個人に対して贈られるものです。冒頭、田中明彦JICA理事長は受賞者に対して、「日本の技術・知見を活用しながら、途上国の人々と共に、国づくりや人材育成、地球規模の課題に取り組んで顕著な成果を上げており、まさに日本らしい協力を実現しています」と感謝を述べました。

今回、JICA理事長賞を受賞したのは個人2人と7事業。その一つが、タイのチャオプラヤ川流域洪水対策事業です。複雑な氾濫状況を調査・解析し、タイ政府が計画した3分の1の費用で同様の効果を持つ計画を提案し、高精度の洪水・氾濫予測を行政・一般に提供するシステムが高く評価されました。この事業を担当した株式会社社建設技研インターナショナルの三品



受賞事業を代表してあいさつした三品執行役員(左)と村岡さん

孝洋執行役員は、「好きな仕事を思い切りできるのは幸せ。タイの人々から『ありがとう』の一言をもらえるだけで報われます」と語りました。

もう一つの受賞は、ウズベキスタン・タシケント市での盲ろう者のコミュニケーション支援事業。JICA初の盲ろう当事者の専門家(福田暁子さん、村岡美和さん)が通訳・身体介助者を伴って現地に赴き、ワークショップや通訳介助者養成講座などを実施。盲ろう者に対する理解促進と支援実施体制の構築に寄与し、障害当事者の国際協力への参加を実現させた点が評価されました。村岡さんは、「それまで外出もままならなかった現地の盲ろう者と語り合い、抱き合って喜んだことが忘れられません。他の国でも支援したい」と手話で意欲を語りました。

さらに、長年国際協力に携わってきた個人と団体を表彰する「JICA国際協力感謝賞」も個人2人と7団体に贈られました。

青年海外協力隊が読売国際協力賞・特別賞を受賞

02



協力隊経験者代表として表彰を受ける渡邊さん

2015年に50周年を迎える青年海外協力隊事業が、第21回読売国際協力賞・特別賞を受賞しました。同賞は1993年、読売新聞創刊120周年を記念して創設され、第1回の緒方貞子国連難民高等弁務官(当時)を皮切りに、国際協力の分野で活躍した個人、団体、企業が表彰されてきました。

今回の受賞は、半世紀にわたり開発途上国で実施された4万人近い青年海外協力隊の活動、そしてその経験を生かした日本での活動が高く評価されたもの。本事業を支える一般社団法人協力隊を育てる会と公益社団法人青年海外協力協会にも贈られました。11月11日の贈賞式では、マラウイで言語聴覚士として活動した渡邊千紘さんが代表で表彰を受けました。今回の受賞が事業のさらなる発展につながり、多くの市民の皆さんの理解にもつながることが期待されます。

寄附で国際協力の第一歩を踏み出そう!

03



JICA基金の支援を受けて活動する一般社団法人コミュニティ・4・チルドレンのフィリピンでの障害者支援

日本にいなながらも、思い立った時にいつでも簡単にできる国際協力。その一つが寄附です。現在、日本国内のNGOとJICAが連携して、市民の皆さんの国際協力への理解と参加を促進しようと、共同寄附キャンペーンを実施しています。

JICAが実施する「世界の人のためのJICA基金」に寄せられた寄附は、開発途上国で活動するNGOなどの活動を支援しています。また、認定NPO法人国際協力NGOセンター(JANIC)のような各NGOをつなぐネットワークNGOや、そこに加盟するNGOに寄附する方法もあります。

あなたも、日本発のNGOを応援してみませんか?

【キャンペーンサイト】 [www.jica.go.jp/partner/private/kitu/60th.html](http://www.jica.go.jp/partner/private/kitu/60th.html)  
 【問い合わせ】JICA国内事業部 市民参加推進課  
 【TEL】03-5226-8789